

2024年1月9日
プレスリリース No.020-23

今年も1月15日から「久留女木 棚田の恵」が販売

「引佐耕作隊」が今年度収穫した米の試食会を実施します

静岡文化芸術大学「引佐耕作隊(いなさこうさくたい)」は、本学の学生有志によって結成され、2016年から浜松市北区引佐町「久留女木の棚田」において耕作放棄地を活用し、米作りを行ってきました。引佐耕作隊は、米作りだけでなく収穫した米を販売することによって耕作放棄地を活用することで発揮される「棚田の多面的機能」について伝えていきます。さらに、販売収益を活動費に充てることで持続可能な活動とすることを目指しています。

今年度は昨年度よりも耕作面積が増え、コロナ前の活動と同じ3枚の田んぼ(約480㎡)で米作りを行ってきました。2023年の10月28、29日に稲刈りを行い、天候の影響から約3週間稲架けを行いました。脱穀、粃摺りを終え、収穫量は175.6kg(品種:にこまる)でした。この米を12月下旬に精米し、パッケージ詰めを行いました。1つ300g入り、約480個作ることができ、これを1月15日から販売する予定です。

販売を前に、メンバーで試食会を行うこととなりました。報道機関の皆様には、是非当日の取材をお願いいたします。

■「試食会」概要

【日時】2024年1月11日(木) 16:00~17:00

【場所】静岡文化芸術大学 北棟8階 文政資料室

【参加者】静岡文化芸術大学学生4~7名



【「久留女木の棚田」について】

浜松市北区引佐町にある観音山の南西斜面(標高250m付近)に位置しています。総面積は7.7ha、その中に約800枚の田んぼがあると言われ、その美しい景観は農林水産省の指定する「つなぐ棚田遺産(ポスト棚田百選)」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。この棚田は、平安時代が起源とも言われ、とくに戦国時代に井伊氏(井伊直虎の祖父)の庇護のもと、開墾が進んだと考えられており、古い歴史と文化を有する棚田です。

しかし、最近の農家の後継者不足から耕作されなくなる棚田が多くなっています。棚田が荒れてくると、棚田の美しい景観が損なわれるだけでなく、土砂崩れの抑制や交流の場の創出などの「棚田の多面的機能」も発揮されなくなります。

【「引佐耕作隊」の活動】

引佐耕作隊は、およそ1~2週間に1度の頻度で田んぼに通い、田起こしから代掻き、水管理や施肥、除草、稲刈りや脱穀といった米作りの全ての工程を学生主体で行っています。また、収穫した米は、「棚田の多面的機能」をデザインしたパッケージに詰め、同学生協購買や市内の飲食店などの商業施設で販売しています。

昨年度は「久留女木地域振興協議会」のプロジェクトとして、農作業を説明する動画の作成を行うなど、米作り以外の面でも久留女木の棚田、久留女木地区にかかわっています。

※「久留女木 棚田の恵」の販売については、別紙資料(チラシ)をご覧ください。

<本リリースに関する問い合わせ>

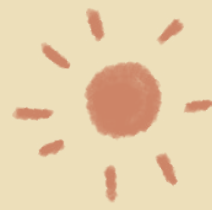
静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 3年 植田勝也
Tel. 090-9267-8745 / Email. g2112004@suac.ac.jp
(静岡文化芸術大学 企画室(松本) Tel. 053-457-6113)

公式Webサイト





引佐耕作隊
inasakousakutai



kurumeki,
久留女木
棚田の恵

2024 1.15 (月) ~ 26 (金) 販売



一袋
500
円

大学生協購買など
市内商業施設で販売

※売り切れ次第販売は終了します





「棚田の多面的機能」 をご紹介します

美しい景観で
人々に癒しを与える



水を蓄えることで
天然のダムとなる

きれいな水と空気で
お米が育つ



農村の人と都市の人の
交流場になる



多様な生き物の
住みかになる

こんにちは！わたしたちが引佐耕作隊です

久留女木の棚田は、浜松市浜名区引佐町の北部の山間部に位置します。「つなぐ棚田遺産」「静岡県景観賞」にも選ばれており、美しい景色が広がっています。しかし、その耕地の約6割は休耕田となっています。そこで静岡文化芸術大学の学生たちで 2016年4月「引佐耕作隊」を結成し、地域の方々の協力のもと、お米作りに取り組みできました。人間が生きるために必要な糧を作り出してくれる棚田に感謝し、収穫されたお米を「久留女木 棚田の恵」と命名しました。是非、ご賞味ください。

Instagram
@inasakousakutai



X (旧Twitter)
@inasakousakutai



Facebook
引佐耕作隊

